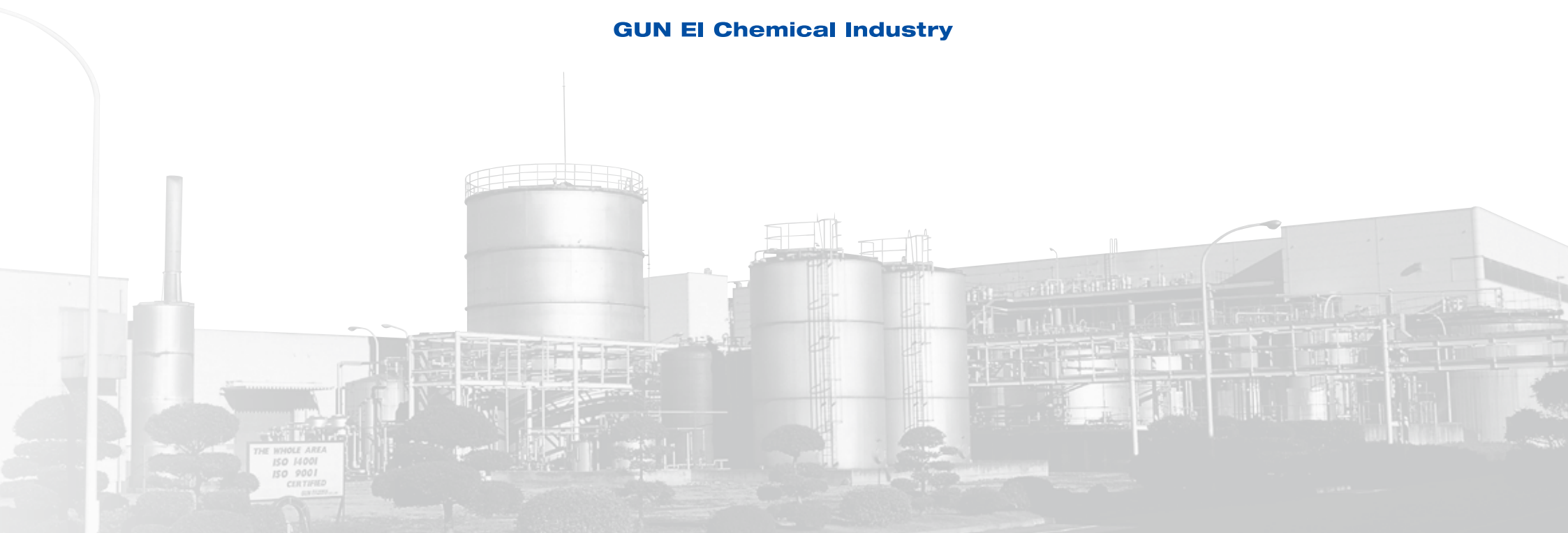


化学のココロ。

GCI

GUN EI Chemical Industry



GUN EI

化学のココロ。



化学を愛し、樹脂を育み、新素材の夢を見て。

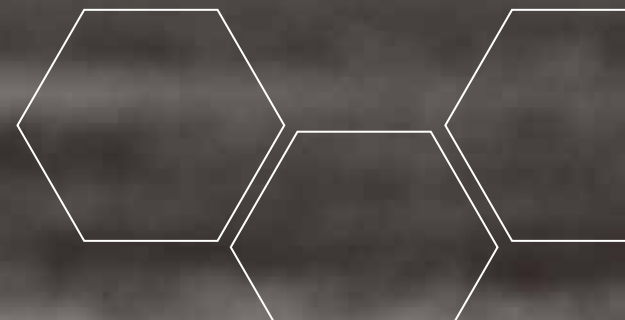
化学の大好きな少年が実験にのめり込むように、

化学を愛し、化学に没頭しながら、GCIは成長を重ねてきました。

技術革新が加速し、市場のグローバル化が進む中、これからの産業を支え、日本から世界へ新しい技術と素材を発信していくために、私たちは、化学のプロ集団として決意を固めています。

根っからの化学人であること。革新技術や革新素材の裾野を切り拓いていく
開拓者のような化学素材メーカーであること。

この会社案内により、化学に対する私たちの強い思い、熱いココロが
皆さまに伝わることを願っています。





History

そこには確かに、ロマンがある。

【GCIは何を創ってきたのか？】

- 1946 群馬栄養薬品株式会社を設立
でんぶん糖製造販売でスタート
- 1951 工業用フェノールレチンの製造を開始
- 1953 **群栄化学工業株式会社**に社名変更
- 1979 東京証券取引所 市場第1部に上場
- 1982 カイノール繊維の生産開始
- 1990 Thai GCI Resitop Company Limited 設立
- 1992 本社を現在の高崎市宿大類町に移転
- 2009 群栄商事(株)、群栄ボーデン(株)、日本カイノール(株)を吸収
- 2012 India GCI Resitop Private Limited 設立
- 2014 東北ユーロイド工業株式会社を100%子会社化
- 2018 American GCI Resitop, Inc. 設立
- 2022 東京証券取引所プライム市場へ移行

「食」という身近な社会生活から、「産業」という最先端を求められる世界まで。

GCIは、「素材」という最終的には目に見えない製品を通して人々の暮らしを支えてきました。

目には見えないけれども、それ無くしては生まれなかった技術、果たせなかった進歩もあったことでしょう。

「素材」を突きつめること、それは社会の動力を創ること。

私たちの製品は、いわば社会を動かすエネルギーでもあると思うのです。

■GCIの技術フィールド



私どもは社として「節約・勤勉・合理主義」、理念として「化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する」と言うことを掲げております。21世紀に入り、世界の経済、政治情勢が大変大きな激動期を迎えている中、我々は何をするべきか。今、その課題の答えを模索しております。その中で、群栄化学では「製造業とは最高のサービス業」だ、と言うことを実践して行こうと考えております。こうした事をモットーにして、新しい道を切り開かなければいけないと考え、私どもの特徴である化学・食品の2大分野をコラボレーションすることでグリーンケミストリーを実現する。グリーンケミストリーの実現で若い力もより活用し、社会貢献を実現していく。群栄化学は「製造業とは最高のサービス業」である事を目指し、日々研鑽してまいります。

代表取締役会長
有田 喜一
Yoshikazu Arita



わが社は創業以来、化学品においては自動車、住宅、及び電子材料関係を中心に、食品においては糖類を中心として研究開発を行い、豊かな未来社会づくりに貢献してきました。これからも技術がますます早いペースで進歩する中で、当社がこれまで培ってきた化学の知識やアイデアを活かし、マーケティング活動により市場のニーズを的確に把握することで、緑の下の力持ちとして世の中の役に立つ会社にしていく所存です。海外子会社も含め、多様性に富み、かつ活気ある群栄化学工業グループを築き、あらゆることに好奇心を持ち、チャレンジしていきます。「環境に優しく、より豊かな生活」「健康で生き生きとした人生」。当社の化学品、食品の特徴を活かし、夢のある社会の実現に向けて日々努力してまいります。

代表取締役 社長執行役員
有田 喜一郎
Kiichirou Arita



1946年の創業以来、技術を深め、広げてきました。

1946年、でんぶん糖製品の製造・販売からスタートした私たちの歴史は、やがて工業用フェノール樹脂の分野へと膨らみ、以来、75年にわたり「樹脂」と「糖」2つのコア技術を柱とするユニークな化学メーカーとして歩んできました。その根底に流れるのは、オリジナリティあふれる製品を世に送り出すという研究開発スピリット。市場ニーズはもちろん、その先にある新たな社会に求められる価値を見つめ、グローバルに通用する独自技術・製品を生みだしていくために、常にコア技術を磨き、深めながら、新分野へのチャレンジをつづけています。



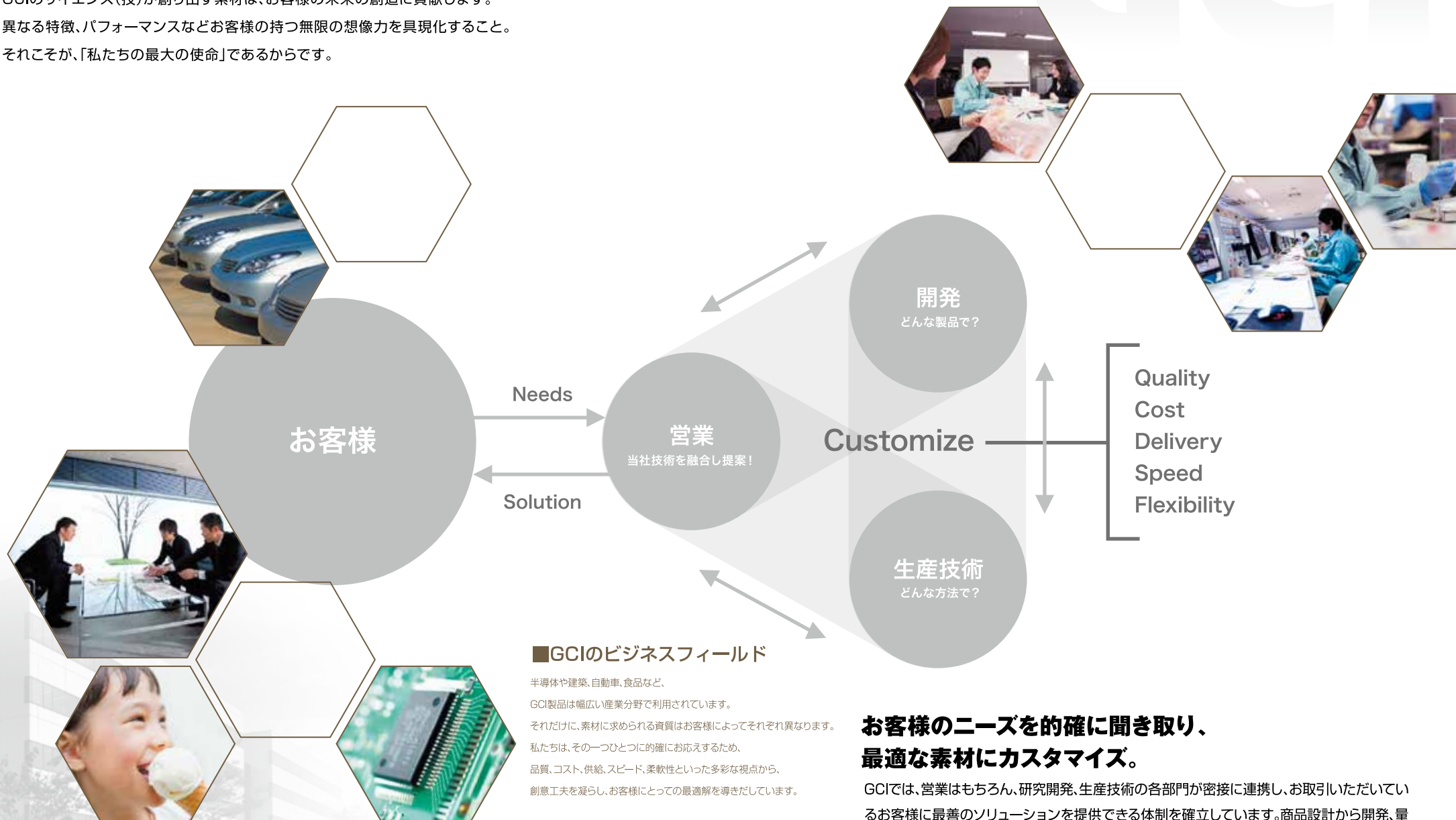
Business Field

完成品は、顧客の頭の中にある。

【GCIには何ができるのか？】

ケミカルサイエンス、フードサイエンス。

GCIのサイエンス(技)が創り出す素材は、お客様の未来の創造に貢献します。
異なる特徴、パフォーマンスなどお客様の持つ無限の想像力を具現化すること。
それこそが、「私たちの最大の使命」であるからです。



お客様のニーズを的確に聞き取り、 最適な素材にカスタマイズ。

GCIでは、営業はもちろん、研究開発、生産技術の各部門が密接に連携し、お取引いただいているお客様に最善のソリューションを提供できる体制を確立しています。商品設計から開発、量産化に至るまで、お客様のあらゆるフェーズにおける悩みや課題に対し、最適なスタッフがただちに駆けつけご要望をヒアリング。それを全部門で共有し、研究開発・生産工程に反映させることで、最適な素材にカスタマイズしご提供いたします。今まさにラインを流れている製品の最適化や改良にもスピーディーに対応し、タイムリーかつ確かな課題解決策をご提案します。



Business Domain

ロマンの行き先に、限界などない。

【GCIを支える2つの中核事業】

GCIは、ケミカルサイエンスとフードサイエンスの二つの部門を柱に、多彩な産業分野に向けて独創的な製品を供給しています。当社化学製品のトータルブランドである「レチトップ」は、その高い性能を評価され、数多くのメーカーに採用されているほか、食品事業においても多彩な製品を市場に投入しています。

化学品事業部門

樹脂の持つ可能性を、あらゆる分野の性能に。

GCIの化学製品「レチトップ」は、成形加工材料として使用されるだけでなく、その優れた特性を活かし、バインダーや添加剤、電子材料、建材、さらには宇宙開発に要する先端資材にまで広く活用されており、あらゆる産業分野において不可欠な素材となっています。GCIは国内トップクラスの素材メーカーとして、「レチトップ」の更なる特性向上に注力するとともに、これまでの常識にとらわれることなく、新たな産業分野に向けての用途開発も積極的に推進。よりファインに、よりニッチに、どこまでも独創的に「レチトップ」の新たな可能性を追求していきます。



2つの事業の
シナジー効果で
新素材開発

GCIでは、化学品と食品2つの事業を融合させることで、常識にとらわれない新素材開発を推進しています。その一例として、環境に配慮した植物由来の原料を使用したバイオマスフェノール樹脂を開発し、複数の分野への展開を行っているほか、環境性能の向上、カーボンニュートラルな社会を目指した様々な素材の研究開発にいち早く取り組んでいます。

食品事業部門

糖を自由自在に操る、ユニークな技術領域。

でんぷんを酵素の働きによって「ぶどう糖」に糖化し、さらに「果糖」へと異性化するプロセスを、すべて自動化されたプラントで行っています。通常、各穀物からでんぷんを取り出した後に糖化しますが、GCIでは穀物からでんぷんを取り出さず直接糖化することで、穀物独自の風味を残す独自技術を開発。こうして生みだされた各種糖質は、甘味づけだけでなく、保湿性、低甘味、素材の味を引き立てるといった多彩な機能で、多様化する時代のニーズにお応えするとともに、清涼飲料から乳酸飲料、菓子、加工食品など幅広い製品の製造において不可欠な素材となっています。



R&D

食品

エレクトロニクス

自動車

エネルギー

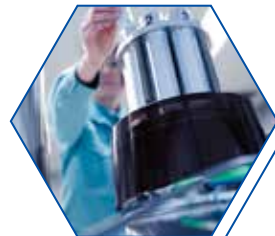
住宅・設備

環境

**さあ、世界で
ただひとつのものを、
創ってしまおう。**

R&D/New Frontier

エレクトロニクス、食品など既存の分野のみならず、
エネルギーや環境など、カーボンニュートラルな社会の
創造を見つめた新たな分野にまで、
GCIにしか創れないユニークな素材で貢献していくために。

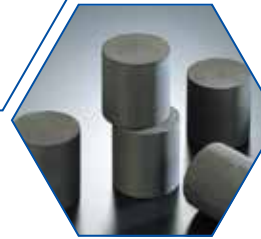
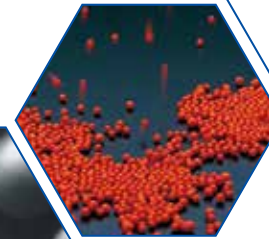




「カインール」は、フェノール樹脂を熔融紡糸したノボロイド繊維で、GCIが独自技術を駆使して世界で唯一製造している
防炎、耐熱、電気絶縁性、耐薬品性などに優れた化学繊維。
「カインール」を原料につくられた繊維状活性炭は、
その優れた特徴を活かして、幅広く環境分野などで利用されています。



新規事業分野



【GCIの研究開発力と新たな可能性】

コア技術を磨きあげ、未来のコアへと育てる。

未来の行き先は、決してひとつではありません。

私たちの、新素材にかける夢はどこまでも限りなく広がっています。

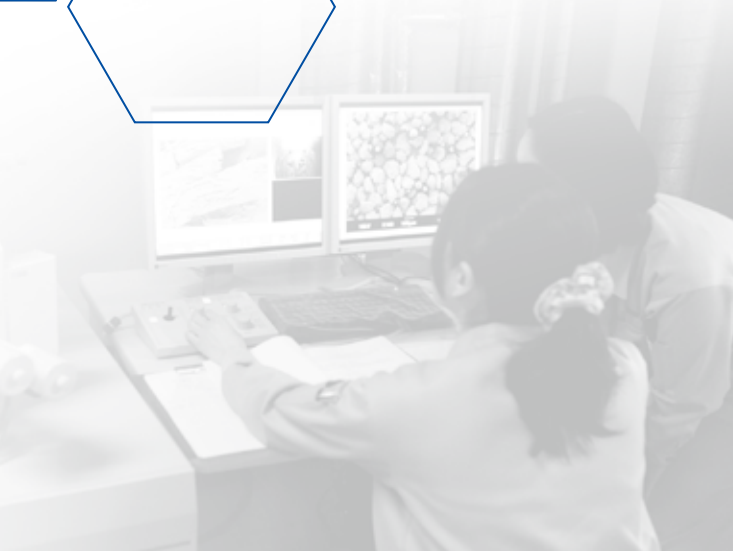
その実現のために、コア技術をベースとした研究開発力のいっそうの強化を図ってきました。

既存のコア技術が、未来のコア技術へと進化を遂げ、

世の中に新たな価値を生みだすその日まで、GCIのR&Dは加速することを止めません。

最終消費者の、社会の、より豊かな未来を目指して。

ユニークな化学メーカーとしてグローバル競争を勝ち抜いていくためには、社会に明確なビジョンを提示できる確かな研究開発力が不可欠です。例えば、創業から培った酵素技術を応用したこれまでにない機能性食品開発を通して、健康や医療に貢献すること。あるいは、糖など天然原料を応用した環境にやさしい工業材料の開発を通して、循環型社会を実現すること。カーボンナノファイバーなどの先端技術を駆使し、エネルギー問題に新たな答えを示すこと。私たちはR&Dを通して新規事業分野を開拓し、より豊かな未来を支えていきたいと願っています。



An aerial photograph of a large industrial complex, possibly a factory or refinery, with numerous buildings, pipes, and storage tanks. The image is overlaid with a semi-transparent blue filter. The text is centered over the middle of the image.

Network/Equipment

いいものには、それだけの理由がある。

【GCIの拠点と生産環境】

すべては、お客様の満足のために。GCIでは、顧客満足の向上を最大の目標として、品質管理はもちろん、製品の安定供給を支える拠点ネットワークの整備、環境・省エネ対策など、様々な取り組みを積極的に推進しています。性能のみならず、生みだされる過程も含めて優れた製品であること。それが、GCIのものづくりに対する理念です。

生産／販売ネットワーク

国内3カ所(群馬、滋賀、岩手)、国外2カ所(タイ、インド)の生産拠点により、国内はもちろん東南アジアをはじめとする海外のお客様に対し、高品質な材料を安定供給できる環境を整備しています。また、国内外を問わずより多くのお客様のニーズに柔軟かつタイムリーに対応していくため、高崎、東京、大阪さらにはタイ、インド、ドイツ、アメリカにまで営業・販売ネットワークを拡張。グローバルな競争力をサポートできる拠点ネットワークも、GCIの大きな強みのひとつです。

● U.S.A.

● Germany

● Iwate

● Head Office
Gunma

● Tokyo

● Shiga
● Osaka

● India

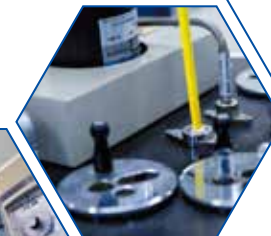
● Thailand

群栄化学工業本社・研究所・群馬工場
Gun Ei Chemical Industry
Head office・R&D・Plant

品質管理・環境・食品安全への取り組み

GCIでは、品質管理の取り組みとして全工場でISO9000シリーズの認証を取得し、お客様満足を第一に考えた厳格な品質マネジメントシステムを構築し、徹底した品質・安全・衛生管理を行っております。環境分野においては、ISO14001の認証取得に加え、社内環境管理委員会を中心とした活動により環境にやさしい工場を目指し、さらなる省エネルギー化を実現してまいります。また、安全設計のなされた建

屋で工場設備を覆い周辺環境への影響を最小化するなど、全社をあげて環境保全を推進しています。また、食品事業においては、食品安全管理の国際規格であるFSSC22000の認証取得により、より高度な食品安全管理が出来る体制を構築しております。これらの取り組みに関する当社の厳しい姿勢は、お客様から高く評価されています。





語りあう。素材と、社会と、未来の夢と。

環境、エネルギー…数々の課題に素材から新たな答えを。

いつしか気づかぬうちに、社会は数多くの課題を抱えこんでしまいました。経済、環境、エネルギー…

これらの解決困難な課題に立ち向かうために、いま、新たな枠組みとパラダイムシフトが求められています。

私たちはこうした現状に、素材の視点から、かつてない解決策を示していきたいと思えます。

幸せなことに、それを可能とするノウハウと技術を持った優れた技術者たちがここには集結しています。

「素材から、未来の在り方を変えて行く」。社員一人ひとりが、プロフェッショナルとしての高い意識と自負を持ち、化学のココロを研鑽しつづける限り、やがてそんな日がやって来ると信じています。



群栄化学工業株式会社

〒370-0032 群馬県高崎市宿大類町700番地
TEL(027)353-1818(代表)

www.gunei-chemical.co.jp

群馬工場

〒370-0032 群馬県高崎市宿大類町700番地
TEL(027)353-1815(代表)

滋賀工場

〒520-3211 滋賀県湖南市高松町1番地4
TEL(0748)75-1241(代表)

高崎支店

〒370-0032 群馬県高崎市宿大類町797番地6
TEL(027)353-1800(代表)

東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目14番4号(京橋TSビル5階)
TEL(03)3567-5081(代表)

大阪支店

〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田2丁目2番17号(和光ビル)
TEL(06)6373-3281(代表)